１．他都市の図書館配置状況

政令市（１７市）の図書館配置状況は、他都市（政令市）の状況（図書館関連資料Ｐ４）のとおりである。

その体制をみると、「中央図書館＋地区図書館」体制は、札幌市など１０市、「中央図書館＋地区図書館＋分館」体制は、千葉市など７市である。

また、各都市（北九州市を除く）では、行政区に地区図書館（中央図書館を含む）が配置されているが、その規模は、約 2,000～500 ㎡とそれぞれの都市の実情に応じて異なっている。

２．市民ニーズ

（１）利用図書館の状況

区分	利用頻度１位の図書館の割合	利用の特徴	
		図書館別	地域別
一般市民 (資料P12～13)	１位　中央図書館 ２位　若松図書館 ３位　八幡図書館 (６位　水巻町図書館) 概ね近隣の図書館を利用する傾向にある。	〔資料 13-2(1)参照〕 中央図書館 小倉北区のほか、モノレール沿線の徳力地区、八幡東区の東部からも利用 八幡図書館 八幡東区の西部や黒崎地区のほか、上津役地区からも利用。 戸畑図書館 戸畑区のほか、小倉北区西部からも利用。	〔資料 13-2(2)参照〕 小倉南区 近隣の分館に加え、中央図書館を利用。徳力地区では中央図書館の利用が１位。 八幡西区 近隣の分館に加え、市外の図書館の利用がある。折尾地区では水巻町図書館が１位。 二島・折尾地区 学術研究都市の図書館が利用されている。
図書館利用者 (資料P14)	１位　門司図書館 ２位　中央図書館 ３位　企救分館 概ね近隣の図書館を利用する傾向にある。	〔資料 13-3(1)参照〕 八幡図書館 八幡西区の利用者が半数を超えており、上津役地区からも利用。	〔資料 13-3(2)参照〕 若松・八幡西区 中央図書館の利用がほとんどない。 八幡東・八幡西・戸畑区 市外・区外の広範囲にわたって利用。

（２）利用図書館の選択理由

区分	選択した図書館を利用する理由
一般市民 （資料 P15）	・「自宅に近い」が６割、次いで「通勤等に便利」。 ・「自宅に近い」のほか、年代別では、20 代が「通勤等に便利」や「雰囲気がいい」、40 代は「見たい本が多い」、50 代は「通勤等に便利」が比較的高い。
図書館利用者	一般市民と同様の傾向。
高校生	・「自宅に近い」が６割、次いで「雰囲気がいい」。

（３）図書館へのアクセス

区分	利用図書館への主な交通手段	自宅から図書館までの移動時間
一般市民	・「自家用車」53.7%、次いで「徒歩のみ」21.0%。 ・「自家用車」の割合は年齢が高くなるにつれ低くなる一方、「徒歩のみ」は逆の傾向。	・「15 分未満」が 48.3%、次いで「15～30 分未満」が 37.8%。 約 86%の人が 30 分未満。
図書館利用者	・「自家用車」41.5%、次いで「徒歩のみ」26.8%。	一般市民と同様の傾向。
高校生	・「自転車」が 45.4%、次いで「バス」が 25.4%。	一般市民と同様の傾向。

（４）図書館に行く理由

区分	図書館を利用する目的
一般市民 （資料 P16）	・「借用」が６割、次いで「閲覧」「調べもの」が多い。 ・年代別では、20 代は「調べもの」が最も多いものの、他の年代では「借用」が最も多い。但し、年代が上がるにつれ、「閲覧」や「調べもの」の割合が高くなる傾向。
図書館利用者	・「借用」が８割で、他の目的は１割未満。
小中高校生	・高校生では「学習室利用」が６割、次いで「借用」「閲覧」。 ・小中学生では「閲覧」が５割、「借用」が 2～3 割。

（５）本を読まない、図書館に行かない理由

区分	本を読まない、図書館に行かない理由
一般市民 （資料P17～18）	・「時間がない、暇がない（37.8%）」「購入するので必要がない（36.9%）」、「借りるのが面倒（31.1%）」「図書館が近くにない（24.3%）」の順。 ・年代別では、30～50代は「時間がない、暇がない」が、20,60,70代は「購入するので必要ない」が１位。 ・地区別では、小倉南区と八幡西区の「図書館が近くにない」の割合が他の行政区より高い。
図書館利用者	日頃から図書館を利用しているため、該当なし。
小中高校生	・高校生では「時間がない」が６割を超える。次いで「借りるのが面倒」。 ・小中学生では「買うので必要ない」いずれも１位。小学生では、「図書館に行っても楽しくない」「部活が忙しい」の順。中学生は「借りるのが面倒」「読みたい本がない」「部活が忙しい」の順。

（６）図書館配置に対する満足度

区分	現在の図書館配置状況に対する満足度
一般市民 （資料 P19）	・「満足」「やや満足」を合わせて４割 ・「やや不満」「不満」を合わせて２割、「どちらでもない」は３割 ・区別では、八幡西区で「やや不満、不満（34.0%）」が「満足、やや満足（25.8%）」を上回っている。
図書館利用者	・「満足」「やや満足」を合わせて６割 ・「やや不満」「不満」を合わせて２割、「どちらでもない」は１割
高校生	・「満足」「やや満足」を合わせて５割 ・「やや不満」「不満」を合わせて１割、「どちらでもない」は３割

３．配置に対する評価

図書館利用者数については、ここ数年、各館の積極的な取り組みもあって、増加傾向にあるが、市民アンケートによると約半数以上が図書館を利用していないのが現状である。

利用しない理由として「購入するので必要ない」「借りるのが面倒」など図書館利用に対し消極的な意見の一方で、「時間がない、暇がない」「図書館

が近くにない」などをあげる市民も多く、利便性の向上や借りやすい環境づくりに向けてハード、ソフトの面から整備を進めていくことが求められる。

そこで、現行の図書館配置をみると、市民の満足度では、一般市民の約４割、図書館利用者の６割から肯定的な意見をいただいている（「不満」は２割程度と少ない）など、身近なところで、図書に触れる機会を提供するとの観点からは、一定の評価をすることができる。

しかし、図書館を利用する理由として、自宅から近いなど交通の利便性を掲げるものが多く、とりわけ、小倉南区、八幡西区では、他区に比べて、図書館の配置に対し「やや不満、不満」の割合が高かったり、「図書館が近くにない」ことが利用しない理由となっていることなどを勘案すると、これら両区については、新たな図書館整備を含め図書館サービスを受けやすい環境づくりに向けて検討する必要がある。

事実、読書活動を深めたり、ものを調べたり、各種講座を受講するなど高次の図書館サービスを受ける観点では、八幡西区や小倉南区のように地区図書館から離れ、分館しかない地域や中央図書館まで遠い地域では十分なサービスを享受できていない面があることが推測される。

地　区	人　口	課　　題
曽根地区	98,000 人	中央図書館へは、　約　９キロ
徳力地区	74,000 人	中央図書館へは、　約　７キロ
黒崎、上津役地区	132,000 人	最寄りの地区館へは、約　４キロ 中央図書館へは、　約１４キロ
折尾地区＋二島	119,000 人	最寄りの地区館へは、約　８キロ 中央図書館へは、　約１８キロ
八幡南地区	51,000 人	最寄りの地区館へは、約１１キロ 中央図書館へは、　約２１キロ

４．図書館配置のあり方

（１）配置に対する基本的な考え方

ここ数年、図書館利用者数が増加傾向にあり、市民アンケートでも配置状況に関し肯定的な意見も多いことなどから、現行の図書館配置については、十分その役割を果たしていると考える。

今後、さらに図書館へのアクセス向上やサービスの均衡を図り、利用者の拡大を進めていくためには、返却フリーやインターネット予約などのサービ

スの充実と合わせて、利用者数や人口、さらに交通利便性に配慮した図書館配置について検討することも必要である。

この検討にあたっては、前回答申（平成 14 年 11 月「生涯学習拠点としての図書館のあり方」）にもあるように中央図書館、地区図書館、分館を基本にしつつ、既存施設の有効活用を図るとともに、まちづくり計画（地域開発）にあわせた図書館整備など、本市の財政状況にも配慮しながら、効率的な手法を選択して総合的に進めていくべきである。

（２）既存図書館の配置

ア．地区図書館

地区図書館については、旧市の図書館を引き継ぎ活用された経緯もあって、概ね建築後３０～５０年が経過するなど老朽化しているものの、サービスの向上やバリアフリー化のための施設改修などに取り組んでおり、ここ数年、利用者数が増加傾向にある。

今後は、当面、既存施設を有効に活用しながら、大規模な耐震改修工事やまちづくり計画（地域開発）にあわせて配置を検討すべきである。

イ．分館

分館については、現在、１１館が設置され、その利用者数も全体の半数近くを占めている。市民アンケートにおいても、自宅から近い図書館として分館の利用が一番にあげられるなど地域に密着した図書館として市民に定着している。

今後は、当面、現配置を基本にしつつ、図書館サービスの充実に向けた取り組み状況をはじめ、人口集積、利用実態等の推移をみながら、必要な配置等について検討すべきである。

（３）新たな図書館の整備等

ア．八幡西区

八幡西区は、人口約２６万人（２６．３％）、図書館利用登録者約４万５千人と、両指標において市内最大の地域である。

区内の市立図書館としては、大池・折尾・八幡南分館があるが、３つの分館の蔵書数（１２万６千冊、７．８％）は人口規模と比較して少なく、また、八幡西区との区境に位置する北九州学術研究都市学術情報センターの図書館（若松区、一般利用可能）の蔵書数をあわせても、なお人口規模と比較して少ない（１６万７千冊、１０．１％）など、他区に比べ、十分

な図書館サービスを提供できていない。

今回の市民アンケートによると、近隣市町村の図書館を利用するケースも多く、とりわけ、折尾地区では水巻町図書館が１位にあげられている。また、門司、小倉北・南区など北九州の東部地区に比べ、地区図書館や中央図書館が比較的遠い位置にあり、アクセス面で劣っているところもある。市民アンケート項目の図書館の配置状況に対する満足度において、「不満、やや不満」が「満足、やや満足」を上回っており、図書館に行かない理由の第２位に「図書館が近くにない」ことがあげられるような結果となっている。

このような状況を考えると、サービスの均衡や利便性の向上の観点から、八幡西区内における、図書館の整備・充実が求められる。

このため、今回、黒崎副都心地区の「文化・交流拠点地区」において国の補助金を活用して施設整備が進められる計画であり、これを機に新たに図書館を整備することが、区民の利便性のみならず財政上も適当と考える。

なお、この整備にあたっては、当該区民が中央図書館を利用するには不便も多いことなどから、その機能にも配慮しつつ、利用者数や周辺の人口規模に見合った副都心にふさわしい図書館整備が望まれる。

イ．小倉南区

小倉南区は、人口や利用登録者は、八幡西区に次いで多く、広さは市内最大である。八幡西区と同様、地区内に地区図書館はなく、人口規模に比較して蔵書数が少ないなど、十分な図書館サービスを提供できていない。

さらに、今回の市民アンケートでは、利用する図書館として、２つの分館のほか、中央図書館があげられ、とりわけ徳力地区（城野、曽根を除く地域）については中央図書館が第１位となっている。また、図書館の配置状況に対する「不満、やや不満」の割合は、第１位の八幡西区に次いで高く、図書館に行かない理由として、「図書館が近くにない」ことが第３位にあげられるなど、他区と異なる傾向が見受けられる。

このような状況を考えると、サービスの均衡や利便性の向上の観点から、今後は、小倉南区のまちづくり計画（地域開発）を見定めながら、新たな図書館の整備を検討するか、又は区役所にも近い北九州市立大学の図書館の資源を市民に開放する仕組みを強化するかなど、効率的かつ実効的な手法を選択して、小倉南区内における図書館の整備・充実について検討する必要がある。